

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**1 学校の現状**

生活指導の徹底が基盤となり、落ち着いた授業、自主的に行う学校・学年行事、活気あふれる部活動など、けじめと明るさが両立した学校生活が営まれている。また、生徒行動指針である「磨く」「挑む」「思いやる」が生徒・保護者・地域社会に浸透し、活力ある取り組みが行われている。

(1) 生徒について

目的意識をもち、明朗快活な生徒が多い。しかし一部に、人間関係づくりができないなど学校生活に馴染むことができずに不登校となる生徒や教育相談を受ける生徒もいる。

(2) 教職員について

公務員としての職務を理解し、強い使命感をもって、熱心に生徒指導や部活動指導に当たる教職員が多くいる。しかし、ここ数年で若手教員が増加し、年齢のアンバランスがある。

(3) 保護者・地域社会について

多くの保護者は、本校の教育活動を理解し連携した指導を行っている。しかし一部に、生徒の基本的な生活習慣が確立できていないなどの課題もみられる。

地域社会は、開かれた学校づくり協議会が中心となり、教育の向上を図っている。PTAはもとより足立九中後援会や「おやじ・おふくろの会」は、教育活動推進で物心両面の支えとなっている。

2 前年度の成果と課題**(1) 成果**

学力向上については、OJTの工夫・改善による教員の授業力向上等で、生徒の学習意欲を高め、主体的に学ぶ態度の育成に重点を置いて学力の向上を図り、学校での学習に努力していると自己評価した生徒が85%を超えた。

豊かな心の育成については、挨拶等の活力ある生活の推進、学校行事や生徒会活動における生徒の主体的な運営、ボランティア活動の推進等により、生徒の自尊感情や自己肯定感が高まってきている。

体力や活力については、東京都教育委員会スーパーアクティブスクールとして保健体育科を中心に授業改善やパラリンピアンとの交流、全生徒が参加する部活動を推進など実践的な研究に取り組み、学校全体の活力が高まっている。

小中連携については、小中一貫教育の視点に立った指導を意識して、合同研究や小中教諭のチームティーチングなどを行った。また、中学生による小学生への学習支援や、小学生による中学校調べ及び中学校体験などを通して、児童・生徒の交流活動を一層推進することができた。

(2) 課題

ア 確かな学力を定着させるための授業改善、教員の授業力を高めるためのOJTやOff-JTの充実など、新たな有効な指導方法や仕組みづくりが課題である。

イ 東京都教育委員会スーパーアクティブスクールとして研究を深め、活力ある生徒の育成や体力向上の取組の成果をまとめ、区や都全に普及・啓発することが課題である。

ウ 義務教育9年間の対等的・体系的な学びを実現するために、小中一貫教育の視点に立った指導を充実させ、生きる力を育成していくことが課題である。

エ 保護者等との連携により、生活習慣の確立、家庭における学習習慣の確立、スマートフォン等の使用に関する指導の徹底、自立心の育成などが課題である。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要

重点的な取組事項－１ 学力向上

主体的・対話的で深い学びの導入、個に応じたきめ細かな指導、定期的な教科コンテスト、放課後に行うE S L等の補習や夏季補充授業等による基礎的・基本的内容の徹底、補充教室やサマースクールの充実、土曜スクールや各種検定取得の推進など、生徒の主体的な学習を促す学力向上策を実施した。

重点的な取組事項－２ 健全育成

挨拶や礼儀・マナーの推進、生徒会活動や学校行事における生徒の自主的な運営、スポーツメンタルトレーニング等の外部人材を活用した学びの教室、食育の充実、全生徒参加型の部活動の充実、社会貢献活動の推進などを通して、生徒に自主的・自律的な態度の育成を図った。

重点的な取組事項－３ 小中連携

小中一貫教育の視点に立った指導を意識し、推進委員会で検討し、喫緊の課題をもとに3つの部会を組織し、小中の合同研究で研究に取り組み、中間まとめを行った。また、中学生による小学生への学習支援や、小学生による中学校調べ及び中学校体験などを通して、児童・生徒の交流活動を一層推進した。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 学力向上

自主的に早朝から学習する生徒や、昼休みなどに生徒同士で教え合う取り組みを行うなど、生徒の主体的に学ぶ態度が少しずつ養われた。区学力調査では学校全体の通過率が64.9%と過去最高になった。

次年度は、学力調査の分析と改善策の検討、主体的で対話的な学びへの授業改善、O J Tの充実による教員の授業力向上、家庭との連携等で、生徒の学習意欲を高め、主体的に学ぶ態度の育成に力を入れていく。

重点的な取組事項－２ 健全育成

挨拶等の活力ある生活の推進、学校行事や生徒会活動における生徒の主体的な運営、ボランティア活動の推進等により、部活動や行事に頑張れた生徒が90%を超えるなど自己肯定感が高まった。

次年度は、本年度の取組を充実させるとともに、社会貢献活動の推進やスマートフォン等の使用の自己抑制など、思いやりの心や自律の態度を養い、生徒の自尊感情や自己肯定感を一層高めていく。

重点的な取組事項－３ 小中連携

喫緊の課題をもとに3つの部会を組織し、小中の合同研究で研究に取り組み、中間まとめを行うなど小中一貫教育の視点に立った指導を一層推進することができた。

次年度は、情報交流や授業観察を充実させ、学力向上と体力向上のために、体系的な学びをまとめ教員の実践力を育成していく。また、児童・生徒の交流などの充実を図っていく。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

生徒たちには無限の可能性があり、一人一人違った良さや個性があります。それを引き出し、自ら未来を切り拓いていく力を育成するのが義務教育の使命です。

本校では、文武両道を合言葉とし、目指す生徒の姿を「磨く」「挑む」「思いやる」として、全教職員が丸となって指導に当たっています。これまで、多くの部活動が関東大会や全国大会で活躍しています。学習についても、期待値を通過する生徒が約65%と大きく向上しています。

これらは、保護者や地域の皆様の本校の教育活動への理解と協力があって成し遂げた成果であると考えています。また、開かれた学校づくり協議会では、生徒の様々な活動をご覧いただき、多くの励ましの言葉をいただいています。さらに、本校には足立九中後援会があり、物心両面の支援をいただいています。

生徒たちは、地域の次代の形成者であるとともに、現在でも地域社会を安全かつ明るくするための重要な人材です。このことを踏まえて、学校・家庭・地域が一体となり、未来に輝く生徒を育成していきたいと考えておりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

2. 平成□□年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
学力向上 基礎的基本的な学習内容の定着	区学力調査 通過率65%	通過率が64.9%であり、 これまでで最高の値となっ た。	個人や学年、教科による 差が見られる。この対応 が課題である。	○	
目標実現に 向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎学力の定着	基礎計算 未定着生徒数 20%以下	数学習熟度別指導、定 期的確認テストの実施 及び放課後の個別補充 指導の徹底	E S L、確認テスト、 確認再テストと繰り返 し実施し、10%以 下になっている。	生徒に、できる 喜びを味わわ せる指導を充 実させていく。	◎
個に応じた指導 の充実	区調査 数学 通過率 65%以上	数学習熟度別指導の改 善・充実と考査前考査 後指名補充学習教室7 日	昨年度56.5%から 本年度は60%に向 上した。	授業改善や家 庭学習の充実 など定着が課 題である。	○
指導法の改善・充 実	校内研修年4 回以上の実施	教科指導法の改善に係 る研修4回と効果的な O J Tの改善・充実	教科指導専門員の協 力や主幹教諭が企画 した指導と評価等の ミニ研修など10回 以上実施した。	若手教員の増 加に伴う総合 的な実践力の 低下への対応 が課題である。	◎

重点的な取組事項－2 健全育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
学校生活の充実・向上	学校充実度調 査の「満足」を 80%以上	学校満足度は89.4%で あった。	目標は十分達成したが、 約10%の生徒への指 導の充実が課題である。	◎	
目標実現に 向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習活動への意 欲	生徒学校生活 充実度調査に おける努力率 88%以上	到達度測定テスト等の 実施による継続的な努 力の評価と励ましの推 進	学校での学習に努力 したと回答した生徒 が87.1%であり、 おおむね達成した。	授業改善によ り維持・向上さ せていくこと が課題である。	○
部活動への積極 的参加	生徒学校生活 充実度調査に おける参加率 90%以上	全生徒対象の部活動説 明の実施と1年生仮入 部期間の延長による部 活動の推進	部活動に積極的に参 加したと回答した生 徒が91.6%と高い 目標を達成した。	活力ある生活 に関する指導 の充実が課題 である。	◎
学校行事の主体 的な運営参加	生徒学校生活 充実度調査に おける充実率 95%以上	委員会、係活動の立 場・役割の明確化と生 徒の自主的な運営の推 進	頑張れたと回答した 生徒が97.1%と高 いレベルで目標を達 成した。	よき伝統とし て引継ぎ、発展 させることが 課題である。	◎

重点的な取組事項－3 小中連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中一貫教育の視点に立った活力ある生徒の育成	合同研究・研修の実施、教材等の開発、活力に関する生徒の自己評価80%以上	学校の学習での努力は87.1%、運動への関心の高まりは82.7%であり、十分達成できた。	研究の方向性を探りながらの初年度であったが、日常的な連携と発展的な研究の推進が課題である。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中一貫教育の視点にたった教育活動の推進	教科等における学習の体系化、小中合同による研究の推進、成果検証と小中一貫教育の推進	アクティブ・ラーニングを踏まえた推進委員会を4回、全体会を2回、分科会を4回、授業研究を4回程度実施	小学校3校を含めた4校で研究計画を作成し、各学校での協議や合同での協議を重ね、10の研究授業を行い、研究の成果としてまとめた。	本年度初めての取組を生かし、次年度はさらにカリキュラム開発していくことが課題である。	◎
円滑な接続のための交流活動等の充実	関係3小学校児童の九中入学者を増員と中学生による小学校事業への支援・参加	小学校6年生の中学校授業・部活動体験、中学生の夏季休業日における小学校補充学習への学習支援	左の方策に加え、朝の挨拶や行事等での訪問などを行った。現時点で昨年度より20人多くなった。	管理職の交流は深まったが、全教員に広げていくことが課題である。	◎
体力の向上と活力ある生活の推進	運動等への関心や体力が高まったと感じた生徒を80%以上	スーパーアクティブスクールとして、体力向上に関する研究の推進と、関連する教科の授業や体育活動の充実	関心が高まった生徒は82.7%であり、目標を達成した。また、研究の成果をまとめ、連携小学校に提供した。	体力向上に関する意識啓発、区モデル校の取組を生かし、さらなる発展が課題である。	◎

3. 学校活動全般について

創立70周年を迎え、学校を愛する地域住民が支えてくれていることを確認するとともに、地域を愛する生徒、活力のある生徒の育成に取り組んだ。本校の行動指針である「磨く」「挑む」「思いやる」は、生徒や保護者、地域住民にも十分理解していただいている。今後は、これからの社会を生き抜く力として求められているグローバル人材の育成を目指し、学校・家庭・地域が連携した教育を一層充実させていく。

また、生徒の発達の段階を踏まえて、物事に対する関心を深めること、わかる・できる楽しさを味わわせることや、他者と協力して課題を解決していくことなどの体験を通して、教育基本法が示す生徒の主体的に学ぶ態度を養う教育の充実に努めていく。